

《論文》

ウクライナ侵攻の思想的背景考 —プーチン論文「ロシア人 (Русь) とウクライナ人の 歴史的一体性について」から—

大矢 温

はじめに

ロシアによるウクライナ侵攻が開始される半年ほど前の2021年7月12日付でプーチン大統領の署名論文「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について」がクレムリン府のサイトに公表された¹。今回のウクライナ侵攻の背景にあるプーチン大統領の歴史観を知る意味でも、それを背景とした紛争の発生メカニズムを解明する意味でも重要な意味を持つ文章なので、彼の誤解や曲解も含めて全文を翻訳し、分析する。

正確を期すために、概念があいまいな語句には原語を併記し、特に「ロシア」と「ルーシ」に由来する語句には、それぞれ (Россия)、(Русь) と併記して区別した。また、分析の便を図るため、パラグラフごとに先頭に番号を付した。

I 論文「ロシア人 (Русь) とウクライナ人の歴史的一体性について」本文

(1) 最近、番組『直通』²の中で私は、ロシア (Россия)・ウクライナ関係について答えた際に、「ロシア人 (Русь) とウクライナ人は一つの民族 народ、

1 Статья Владимира Путина « Об историческом единстве русских и украинцев » 2021-07-12 17:00:00 <http://kremlin.ru/events/president/news/copy/66181> (2022年9月3日閲覧)

2 テレビ、ラジオで毎年放送されるプーチン大統領の直接対話番組。2021年は6月30日に放送された。

一つの統一体だ」と語った。この言葉は、何らかの情勢、現在の政治状況に向けて語られたのではない。これについては一度ならず語ってきた。これは私の信念だ。したがって、自らの立場を詳細に開陳し、今日の状況について評価を共有することが必要だと考える。

(2) まず強調しよう。近年ロシア (Россия) とウクライナの間、つまり歴史的にも精神的にも本質的に一つである領域の各部分の間に、出現した壁を私は大きな共通の災い、悲劇と受け取っている、ということだ。何よりこれは、さまざまな時期に犯された我々自身の誤りの結果である。しかし同時に、常に我々の一体性の破壊を目指している勢力が明確な目的を持って活動した結果でもある。ここで適用されている決まり文句は大昔から知られているものだ。それは「分割し、支配せよ」だ。何も新しいものはない。ここから民族 национальный 問題をもてあそび、人々の間に反目の種をまこうとする試みが現れるのだ。また一方で、分割し、そのあとで一つの民族 народ の各部分であるお互い同士をけしかける、という至高命題が現れるのだ。

(3) 現在をよりよく理解し、将来を知ろうとするために我々は歴史に注目しなければならない。もちろん、この論文の枠内で千年以上の間に起こったすべての出来事を把握することは不可能だ。しかし我々、つまりロシア (Россия) においてもウクライナにおいても、それについて記憶しておくことが重要な、鍵となる、転換点になる瞬間に言及しよう。

(4) ロシア人 (Русь) もウクライナ人も、そしてベラルーシ人も、ヨーロッパ最大の国家であった古代ルーシ (Русь) の後継者だ。ラドガ、ノヴゴロド、プスコフからキエフやチェルニーゴフに至る広大な領域で、スラヴ系、そしてその他の種族 племя が (現在我々が古代ロシア語 (Русь) と呼ぶ) 一つの言語、経済関係、リューリック王朝の諸公の権力、によって統一されていた。ルーシの洗礼後は一つの正教信仰によって統一されていた。ノヴゴロド公とキエフ大公を兼ねていた聖ヴラデーミル公の宗教選択は³、今日

3 キエフ大公ヴラデーミール一世は、イスラム教、ユダヤ教、カトリック、および正教を比較した末、西暦 988 年に正教信仰を受容した。國本哲男他訳『ロシア原初年代記』、名古屋大学出版会、1987 年、99～134 頁。

でも多くの点で我々の同族性を規定している。

(5) キエフ公の座は古代ルーシ国家(Русь)において首位の地位を占めていた。そのように9世紀末から行われたのだ。『原初年代記』はオレーク公のキエフについての言葉「これはルーシの(Русь)母なる都となるだろう」を子孫達のために書き記している⁴。

(6) その後、当時の他のヨーロッパ諸国と同様に、古代ルーシ(Русь)は中央権力の弱体化、分裂に直面した。それにもかかわらず、上層階級も平民もルーシ(Русь)を共通の領域、自分の祖国と見なしていた。

(7) キエフを含む多くの都市が破壊されたバトゥによる破壊的な攻撃の後で⁵、分裂の度合いはさらに強くなった。北東ルーシ(Русь)はキプチャク汗国に従属したが、限定的な主権は維持した。南方および西方のルーシ(Русь)の地は基本的にリトアニア大公国、この点に注目したいのだが、歴史文献ではリトアニアおよびルーシ大公国と呼ばれている⁶、の一部に編入された。

(8) 公や大貴族たちはある公から別の公へ主君を変え、お互いに敵対したが、親しくなり同盟を結ぶこともあった。クリコヴォ原の戦いではモスクワ大公ドミートリー・イヴァノヴィチ⁷とともにヴォリーニ⁸出身の司令官ボブロク⁹、そしてリトアニア大公アルギルタスの息子、アンドレイ・ポポツキーとドミートリー・ブリャンスキーが戦った。そのとき自分の軍勢をママイ汗と合流させたのはリトアニア大公でトヴェーリ大公女の息子ヤガイロ¹⁰

4 Олег Вещий (-912) . 『原初年代記』には、オレークがキエフ公に就いた時の言葉、「お前こそルーシの町々の母となれ」が記録されている。『ロシア原初年代記』、24頁。

5 「モンゴル・タタールのくびき」と呼ばれる13世紀前半から15世紀末にかけてのモンゴルによるルーシ支配のことを指す。

6 この点がロシアではなくウクライナが古代ルーシの正統な後継者である、と主張する論拠の一つになっている。

7 Дмитрий донского (1350-1389) .

8 現在のウクライナの北西部。

9 Дмитрий Михайлович Боброк Волынский .

10 リトアニア大公ヤガイロはリトアニア大公オリゲルダとその二番目の妻ユリアナ・トヴェリスカヤとの間に1350年ごろに生まれた。

だった。これらすべては我々の共通の歴史の一ページであり、その複雑性と多面性の反映である。

(9) ルーシの(Русь)西部地域でも東部地域でも同一の言葉が語られ、信仰は正教だったことを指摘することは重要だ。15世紀中庸まで統一の教会支配が保持されていたのだ¹¹。

(10) 歴史発展の新たな段階において¹²、リトアニア・ルーシ(Русь)も、強大化していたモスクワ・ルーシ(Русь)も、古代ルーシ(Русь)の領域の引力の中心、結集点になることができた。歴史の命ずるところは、モスクワが古代ルーシ(Русь)国家再統一の中心、伝統の継続となることだった。アレクサンドル・ネフスキー公の子孫であるモスクワの諸公は、外部の羈絆をかなぐり捨て、歴史的なルーシ(Русь)の領地を集め始めた。

(11) リトアニア大公国では別のプロセスが進行していた。16世紀にリトアニアの支配エリートはカトリックを受容した。16世紀にはポーランド王国との間でル布林合同が締結され、「二つの民族の(実際はポーランドとリトアニアの)共和国 Речи Посполитая」が形成された。ポーランドのカトリック上層部は相当な領地とルーシ(Русь)領内での特権を受け取った。1596年のブレスト合同によってルーシ(Русь)西部の正教聖職者の一部はローマ教皇の権力に服した。ポーランド化とラテン化が進み、正教は弾圧された。

(12) それに対して16～17世紀にドニエプル水系地方で正教住民による解放運動が活発化した。曲がり角となったのはボクダン・フメリニツキーの時代だった¹³。彼の支持者たちは共和国 Речь Посполитаяから自治権を獲得しようとした。

11 リトアニア大公国占領下のキエフにおいて、ウラヂーミルに移った「キエフと全ルーシの府主教座」と併存する形で1375年には「キエフとリトアニアの府主教」「小ロシアとリトアニアの府主教」が置かれ、さらに1390年には「キエフと全ルーシの府主教」が置かれた。

12 1380年のクリコヴォの勝利を契機にモンゴルの支配を脱したことを指す。

13 Богдан Хмельницкий (1595-1657) . ウクライナ・コサックのヘチマン(最高指導者)としてポーランド・リトアニア共和国に対して1648-1657年にフメリニツキーの乱をおこし、ロシアの庇護を受けてヘチマン国家を樹立した。

(13) ザポレジェ軍団¹⁴の共和国王への1649年の請願書の中にロシア(Русь)正教住民の権利の遵守について、「キエフの軍司令官¹⁵は神の教会を攻撃するためにルーシ(Русь)の、ギリシア法の民であったわけではない」ことが記されていた。しかしザポレジェの人々の声は聞き届けられなかった。

(14) フメリニツキーのモスクワに宛てた請願書がこれに続き、全国会議で審議された。1653年10月1日にこのロシア(Русь)国家の最高代表機関は、この信仰を同じくする者を支援することを決定し、彼らを庇護の元に受け入れた。1654年1月にペレヤスラフのラダにおいてこの決定は承認された¹⁶。その後、フメリニツキーとモスクワの使者は、その住民がロシア(Русь)皇帝に忠誠を誓った、キエフを含む数十の都市を巡回した。ちなみにこのようなことはルブリン合同¹⁷の時にはなかったことだ。

(15) モスクワに宛てた1654年の手紙においてフメリニツキーは皇帝アレクサンドル・ミハイロヴィッチに対して彼が「ザポロジェの全軍団とロシア(Россия)の全正教世界をその堅く高い皇帝の手の元に受け入れてくださった」が故に感謝している。つまりこのザポレジェ人たちはポーランド王に宛てた手紙においても、ロシア(Русь)皇帝に宛てた手紙においても自らをロシア(Русь)正教の民と規定し、呼ばわっていたのだ。

(16) ロシア(Русь)国家とポーランド・リトアニア共和国との長い戦いの過程でフメリニツキーの子孫であるヘチマンのうちのある者は、モスクワから「遠ざかり」、またある者はスウェーデン、ポーランド、トルコに支援を求めた。しかし、繰り返すが、人々にとってみれば、戦争は実質的には解放的な性格を帯びていた。この戦争は1667年のアンドルソヴォ講和条約によって終了した。1686年の「永遠平和条約」が最終的な総括を確定した。

14 Войско Запорожское. ザポロジェのコサック。

15 共和国の官職。

16 1654年にペレヤスラフで開催されたコサックの全国会議(ラダ)において、ポーランド・リトアニア共和国からの独立のために一時的にロシアのツァーリの庇護下に入ることが決定された。

17 1569年に成立したポーランドとリトアニアの制度的同君連合。

キエフ、およびポルタワ、チェルニーゴフ、そしてザポレジェのドニエプル左岸地方がロシア（Русь）国家の一部に編入された。それらの住民はロシア（Русь）正教の人々の本体に併合された。まさにこの地方に対して「小ルーシ Малая Русь（小ロシア Малороссия）」という呼称が確立した。

(17) 当時、「ウクライナ Украина」という名称は、しばしば、古代ルーシの「辺境 окраина」という言葉が12世紀の文献資料の中で国境沿いのさまざまな領域に言及するときにみられるような、そのような意味で使われた。一方、「ウクライナ人 украинец」という言葉は、同様に古文書文献によれば、初期には国境警備の人々、外部との境界を防衛していた人々、を意味していた。

(18) ポーランド・リトアニア共和国に残った右岸地域においては、古い秩序が復活し、社会的、宗教的圧迫が強化された。その反対に、左岸地域、統一国家の保護のもとに接収された地域は、活発に発展した。そこへ大量の住民が他のドニエプル沿岸地域から移住した。彼らは同じ言語と、もちろんのこと、同じ信仰を持つ人に支援を仰いだのだった。

(19) スウェーデンとの北方戦争のときに小ロシア Малороссия の住民の前に、誰の味方になるかについて選択肢はなかった。マゼーパの反乱¹⁸を支持したのは、コサックのごく小さな部分にすぎなかった。いろいろな身分の人々は自分をロシア人（Русь）で正教徒だと考えていたのだ。

(20) 地主貴族の身分に含まれたコサックのスタルシーナ¹⁹の人々は、ロシア（Россия）で政治的、外交的、軍事的に立身出世を果たした。キエフ・モギーラ・アカデミーの卒業生たちは、教会活動において主導的な役割を演じた。ヘチマン制の時代、その国内制度を伴った自治的な国家の事実上の形成の時代、そしてその後、ロシア（Россия）帝国の時代、にもそうだった。小ロシア人たちは巨大な共通のクни страна、その国家機構 государственность、文化、学問を作りもした。ウラル、シベリア、コーカサス、極東の開拓と発

18 イヴァン・マゼーパИван Степанович Мазепа（1639-1709）によるロシアのピョートル一世に対する反乱。フリメニツキー同様にコサック国家樹立を目指した。

19 Старшина казачья．一般的には17世紀以降の特権的なコサック軍人層。

展にも参加した。ちなみにウクライナ出身者たちは最高ポストを含む、統一国家²⁰の指導部における最も重要なポストを占めた。概してフルシチョフとブレジネフが30年ちかくソ連共産党を率い、彼らの党経歴はウクライナと密接に結びついていた、といえは十分だろう。

(21) 18世紀後半、オスマン帝国との戦争の後に、クリミアは、そして黒海沿岸地方は「ノヴォロシア Новороссия」という名称をつけられて、ロシア（Россия）に編入された。そこにすべてのロシア（Россия）諸県の出身者が移住した。ポーランド・リトアニア共和国分割の後、ロシア（Россия）帝国は、オーストリア、後にはオーストリア・ハンガリーになったガリツィアとザカルパチアを除いた古代ルーシ（Русь）の西部地域を取り戻した。

(22) 共通の国家領域へ西部ルーシ（Русь）地域が統合されたのは、単に政治的外交的決定の結果だけではなかった。それは共通の信仰と文化的伝統の、そして、再び特に指摘しておこう、言語的類似性の基礎の上に、行われたのだ。というわけで、17世紀初頭に合同教会の主教の一人ヨシフ・ルートキーは、モスコヴィヤの住民がポーランド・リトアニア共和国のルーシ人（Русь）を自分たちの兄弟と呼んでいることを、彼らの文語は全く同一であり口語は、違いはあるにしてもほとんど目立たないことを、ローマに知らせている。彼の表現によれば、ローマの住民とベルガモの住民のようなものだ。それは我々の知るところによれば、現在のイタリアの中心と北部である。

(23) もちろん、何世紀にもわたる別離と別々の国家における生活のせいで方言 говор と呼ばれる宗教的言語的独自性が発生した。民衆の言葉のおかげで文語が充実した。ここでイヴァン・コトリャレフスキーとタラス・シェフチェンコが甚大な役割を演じた。彼らの作品は、我々の共通の文学的文化的財産だ。タラス・シェフチェンコの詩はウクライナ語で創作されているが散文は、基本的にはロシア語（Русь）で書かれている。ポルタワ出身のロシア（Россия）の愛国者ニコライ・ゴゴリの本は小ロシア（Россия）の民衆の表現と民俗のモチーフにあふれているが、ロシア（Русь）語で書かれてい

20 ソヴィエト連邦のことを指している。

る。この遺産をロシアとウクライナで切り分けられようか。また、何のためにそれをするのか？

(24) ロシア帝国の南西地域、小ロシア (Россия) とノヴォロシア、クリミアはその民族的 этнический、宗教的構成において多様な地域として発展してきた。ここにはクリミア・タタール、アルメニア人、ギリシア人、ユダヤ人、カライム人、クリミア人 крымчак、ボルガル人、ポーランド人、セルビア人、ドイツ人やその他の民族が住んでいた。彼らは皆、自らの信仰、伝統、習慣を保持していた。

(25) 何も理想化しようとしているわけではない。ウクライナ語による宗教的、社会政治的文献の出版、および外国からの輸入を禁じた 1863 年のヴァルーエフ回状²¹ および 1876 年のエムス布告²² が知られている。しかしここで重要なのは、歴史的文脈だ。これらの決定はポーランドにおける劇的な事件、ポーランド民族 национальный 運動の指導者たちの「ウクライナ問題」を自らの利益のために利用しようとする指向、を背景に採択されたのだ。芸術作品、ウクライナ詩集、民謡集は出版され続けたことを付言しよう。客観的事実は、ロシア (Россия) 帝国内で小ロシア (Россия) の文化的アイデンティティーの活発な発展過程が、大ロシア (Россия) 人、小ロシア (Россия) 人、ベラルーシ人 (Русь) を統合する、より大きなロシア (Русь) 民族の枠内で進行したことを語っている。

(26) 同時に、ポーランドのエリート、および小ロシア (Россия) 人インテリゲンツィアの若干の部分において、ロシア人 (Русь) とは別のウクライナ民族、という観念が発生し、強化された。ここに歴史的根拠はなかったし、ありようがなかった。したがって、結論も非常にさまざまな捏造の上に作り上げられたのだ。ウクライナ人は全くスラヴ人ではないとか、またはその反対に、ウクライナ人が真のスラヴ人でありロシア人 (Русь)、「モスコヴィ

21 1863 年 7 月 10 日付の内務大臣 П. А. ヴァルーエフによるキエフ、モスクワ、サンクト・ペテルブルク、デルブタ、およびカザンの検閲委員会に宛てたウクライナ語での出版を制限する内容の回状。

22 1876 年 5 月 18 日付のアレクサンドル二世による勅令。ウクライナ語による教育、公式文書の筆記、および音楽、教会内での使用を禁じる内容。

ト」はそうでない、などというものである。このような「仮説」はしばしばヨーロッパ諸国間の競争の道具として政治的目的で利用されてきたのだ。

(27) 19世紀末からオーストリア・ハンガリー当局は、ポーランドの民族 **национальный** 運動やガリツィアにおける親モスクワ的傾向への対抗策としてこのテーマを受け止めた²³。第一次世界大戦当時、ウィーンはウクライナ・セッチ銃撃軍団と呼ばれるものの形成に助力した。正教やロシア（**Россия**）への共感を疑われたガリツィア人は厳しく迫害され、ターレルゴフやテレジーンの強制収容所に送られた。

(28) それ以後の物事の進展は、ヨーロッパの諸帝国の崩壊、旧ロシア（**Россия**）帝国の広大な領域に広がった苛烈な内戦、外国の干渉と密接に結びついている。

(29) 二月革命の後、1917年3月にキエフにおいて、最高権力機関の役割を主張した中央ラーダが設立された。1917年11月にその第3回大会において、ラーダはロシアの一部としてウクライナ人民共和国（**УНР**）の設立を宣言した。

(30) 1917年12月にウクライナ人民共和国の代表は、ソヴィエト・ロシア（**Россия**）とドイツ、およびその同盟国が会談していたブレスト・リトフスクにやってきた。1918年1月10日の会議において、ウクライナ代表団の団長は、ウクライナの独立に関する通告を読み上げた。その後、中央ラーダはその第4回大会において、ウクライナの独立を宣言した。

(31) 宣言された主権は、長続きしなかった。文字通り数週間後にラーダの代表たちは分離独立に関する合意をドイツ・プロック諸国と署名した。苦境に陥っていたドイツとオーストリア・ハンガリーはウクライナの小麦と原料を必要としていたのだ。最大限の供給を提供するために、彼らはウクライナ人民共和国に自らの軍隊と技術要員を送るに合意したのだった²⁴。

23 ルシン人の民族問題に関しては、大矢温、「ロシア汎スラヴ主義とルシン人の民族性を巡る論争」、2015年10月、札幌大学外国語学部紀要『文化と言語』83号、参照。

24 その結果、独逸の軍事的支援を受けたウクライナ人民共和国軍は、ポリシェヴィキ勢力を駆逐してクリミア半島に至る広大な地域の支配権を手にした。

(32) 今日ウクライナを完全な外国の支配の元にゆだねた人々にとって、当時、1918年に、このような決定がキエフの支配体制にとって致命的なものだったことを思い起こすのも無駄ではないだろう。占領軍の直接的な参加のもとで、中央ラーダは覆され、ウクライナ人民共和国に代わって事実上ドイツの庇護の元にあったウクライナ国を宣言したヘチマンの П. スコロパツキーが権力の座に据えられた²⁵。

(33) 1918年11月（それはドイツやオーストリア・ハンガリーにおける革命的事件の後だが）、ドイツ兵力の支持を失ったスコロパツキーは、別のコースをとって、「ウクライナ人は、まず全ロシア（Россия）連邦の形成の大義に着手しなければならない」と宣言した。しかし、体制は再び変換した。大統領政府と呼ばれる時代が始まった²⁶。

(34) 1918年秋にウクライナの民族主義者 **националист** たちは西ウクライナ人民共和国（ЗУНР）を宣言し、1919年1月にはそのウクライナ人民共和国との合併を宣言した。1919年7月にはウクライナの諸地方はポーランド軍に蹂躪され、旧 ЗУНР の領土はポーランドの手に陥った。

(35) 1920年4月にС. ペトリューラ（現在ウクライナで「英雄」と呼ばれている一人）はウクライナ人民共和国総統の名で秘密協定を締結した²⁷。それは軍事支援と交換にガリツィアと西ヴォリニーをポーランドに引き渡すという内容だった。1920年5月にペトリューラの支持者はキエフにおいてポーランド部隊の隊列に加わった。すでに1920年11月、ポーランドとソヴィエト・ロシア（Россия）との間で講和が成立した後、ペトリューラの支持者の残存部隊はまさにそのポーランドに降伏した。

(36) 内戦と動乱の過程で旧ロシア（Россия）帝国の領域に発生した各種の似非国家がいかに脆弱であったかは、ウクライナ人民共和国の例から明らか

25 1918年4月の「ヘチマンの政変」。これによってウクライナ中央ラーダ政府が打倒され、パウロ・スコロパツキー-Павел Скоропадский (1873-1945) を首班とするヘチマン政府が成立した。

26 ドイツの敗戦によって後ろ盾を失ったスコロパツキーに代わって1918年12月から20年11月まで大統領政府がウクライナ人民共和国を代表した。

27 ソヴィエト・ポーランド戦争のさなかの1920年4月にポーランドとウクライナ人民共和国の間で締結された「ワルシャワ条約」。

だ。民族主義者 **националист** たちは自分たちの国家を設立しようとしたし、白衛軍の指導者たちは不可分のロシア（**Россия**）を支持していた。ボリシェヴィキ支持者によって設立された多くの共和国もまた、ロシア（**Россия**）抜きで自らを考えられなかった。それと同時に、さまざまな動機で時にボリシェヴィキ党の指導者たちはそれらをソヴィエト・ロシア（**Россия**）の領外に文字通りつまみ出した。

(37) というわけで、1918年の初めにドネツク・クリヴォローク・ソヴィエト共和国が宣言され、モスクワにソヴィエト・ロシア（**Россия**）への編入の問題が問い合わされた。結果は拒否だった。レーニンはこの共和国の指導者たちと会見し、かれらがソヴィエト・ウクライナの一部として活動するよう説得した。1918年3月15日、ロシア（**Россия**）共産党中央委員会はウクライナのソヴィエト大会にドネツク炭田地帯代表を含む議員団を派遣し、大会において「全ウクライナのための一つの政府」を設立することを決議した。ドネツク・クリヴォローク・ソヴィエト共和国の領土はそれ以後、主にウクライナ南東地方の一部となった。ロシア（**Россия**）・ソヴィエト社会主義共和国とウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国、およびポーランドとの間の1921年のリガ平和条約によって、旧ロシア（**Россия**）帝国の西部地域はポーランドへ割譲された。戦間期にポーランド政府は活発な移民政策を実行し、「東部クレスィ²⁸」の民族構成を変更しようとした。厳格なポーランド化が施行され、現地の文化や伝統は弾圧された。その後、第二次世界大戦のとき、ウクライナ民族主義者 **националист** の急進派はそれをポーランド系のみならず、ユダヤ系、ロシア（**Русь**）系住民に対するテロルの口実として利用した。

(38) ウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国もその設立主体の一つであったソヴィエト連邦が1922年に設立された際、ボリシェヴィキ指導者の間の激しい論争の末、平等な諸共和国の連合としての連邦国家の設立、というレーニンのプランが実現した。ソヴィエト連邦設立宣言のテキストの中に、

28 現在の西ウクライナ、西ベラルーシ（**Русь**）、およびリトアニアの一部のポーランドでの呼称。

そして1924年のソヴィエト憲法に、連邦からの自由な離脱権が書き込まれた。このようにして我々の国家機構の基礎に最も危険な「時限爆弾」が敷設されたのだ。それは結局内部から自壊した、共産党の指導的役割という予防的で安全のためのメカニズムが消失するや、爆発したのだった。「主権のお祭り騒ぎ」が始まったのだ。1991年12月8日にベロヴェーシ合意と呼ばれる、独立国家共同体設立に関する合意が調印された。その中で「ソヴィエト連邦は国際法上の存在、および地政学的現実としてその存在を終了した」ことが宣言されていた。ところで1993年に採択された独立国家共同体の憲章をウクライナは署名しなかったし批准もしていない²⁹。

(39) 前世紀の20-30年代に「現地化」政策が活発に進められた。これはウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国においてはウクライナ化として行われた。象徴的なのは、この政策の枠内でソヴィエト当局の同意とともに、中央ラーダの元議長でウクライナ民族主義 **национализм** のイデオログの一人で常にオーストリア・ハンガリーの支援を利用していたМ.グルシェフスキーがソ連に帰国し、科学アカデミー会員に選出されたことである。

(40) もちろん「現地化」は、ウクライナの文化、言語、アイデンティティの発展と強化に大きな役割を演じた。それと同時に、ロシア（Русь）の大国主義的排他主義と呼ばれるものに対する闘争を装いつつ、ウクライナ化はときとして、自分をウクライナ人だと思えない人にも押しつけられた。まさにこのソヴィエトの民族 **национальная** 政策（大きなロシア（Русь）民族 **нация**）ではなく、大ロシア（Русь）人、小ロシア（Россия）人、およびベラルーシ人（Русь）からなる三元一体民族 **народ**）は、国家レベルでロシア、ウクライナ、そしてベラルーシ（Русь）のスラヴ三民族 **народ** についての規定を確定したのだった。

(41) 1939年にそれまでポーランドに占領されていた地域はソヴィエト連

29 ウクライナは1991年12月8日のベロヴェーシ合意の当事者として、同年12月21日のアルマトイ宣言の参加者として独立国家共同体の設立に深く関与したこともあって、1993年の独立国家共同体憲章には署名も批准もしなかったにもかかわらず、独立国家共同体のパートナー国としてとどまった。正式に離脱を宣言したのは2018年4月のことである。

邦に返還された。それら地域のかなりの部分はソヴィエト・ウクライナに併合された³⁰。1940年にウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国にルーマニアによって1918年に占領されたベッサラビアの一部と北ブコヴィナが、そして1948年に黒海の島、ズメイヌィ島が編入された。1954年にはロシア（Россия）・ソヴィエト社会主義共和国のクリミア州がウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国に、当時効力があつた法規の深刻な侵害とともに、移譲された。

(42) オーストリア・ハンガリー崩壊後にチェコ・スロヴァキアに編入されたポドカルパチア・ルーシ（Русь）の運命については個別に語ろう。現地住民のかなりの部分をルシン人が構成している。現在このことはほとんど思い出されないが、ソ連軍によるザカルパチア解放後、この地方の正教系住民の大会はポドカルパチア・ルーシ（Русь）のロシア（Россия）・ソヴィエト社会主義共和国、または直接ソヴィエト連邦への編入（個別のカルパト・ルスカヤ共和国の権利として）に賛成した³¹。しかし人々のこの意見は無視された。『ブラウダ』が記すところによれば、1945年の夏にザカルパルカツカヤ・ウクライナの「その古からの祖国であるウクライナへの」再統合という歴史的決定が発表された。

(43) このように現在のウクライナは丸ごとそのままソ連時代の産物なのだ。ウクライナがかなりの程度、歴史的なロシア（Россия）を置き換えて成立していることを我々は記憶しているし知っている。17世紀にどのような地域がロシア（Россия）国家に再統合されたか、ウクライナ・ソヴィエト社会主義共和国がどのような領域を伴ってソヴィエト連邦から離脱したか、比較すれば十分だろう。

(44) ボリシェヴィキは社会的実験のための无尽蔵の資源としてロシア（Русь）の人々 народ を扱った。彼らの意見によれば、彼らは、国民

30 1939年のソヴィエト軍によるポーランド侵攻の結果、占領地域であつた現在の西ウクライナ地域はウクライナ社会主義ソヴィエト共和国に併合された。

31 ロシア・ソヴィエト社会主義共和国に併合されてソヴィエト連邦に加入する、あるいは独自の共和国（カルパト・ルスカヤ共和国）を設立し、共和国単位でソヴィエト連邦に加入する。

национальный 国家をすべて根絶する世界革命を夢見ていた。それゆえ、恣意的に境界を切り分け、気前よく領土的「プレゼント」を配った。我が国を切り刻むときにポリシェヴィキ指導者が何を指針としたかは、結局のところ、すでに意味がないことなのだ。個々の決定の詳細や内幕、あるいは論理について論争することはできる。ただ一つ明らかなことは、ロシア（Россия）が事実上、強奪された、ということだ。

(45) この論文に取り組む際に私は、何らかの秘密文書ではなく、よく知られた事実を含んだ公開文献を根拠にした。現在のウクライナの指導者たちと彼らの国外のパトロンたちは、これらの事実を思い出そうとしない。その代わり、さまざまな口実によって、適切なものも場違いなものも、外国のものも含めて、ソ連共産党もソ連も、さらには今日のロシア（Россия）も、何の関係もない事件までそれに列挙して、今日「ソ連体制の犯罪」を断罪することがしばしば行われている。それにもかかわらず、ロシア（Россия）からのその歴史的領土の引き離しに関するポリシェヴィキの行為は犯罪だとは見なされないのだ。なぜだかわかる。それがロシア（Россия）の弱体化をもたらす以上、我々に悪意を抱く人々はそれをでっち上げるのだ。

(46) ソ連において共和国間の境界は、国境とは考えられず、一つの国（それはすべての連邦制の属性でもあるのだが、繰り返していうが、ソ連共産党の指導的役割のおかげで、本質的に高度に中央集権的なものだった）の枠内の仮の境界という性格を帯びていた。しかし 1991 年にその領土すべてが、そして重要なのはそこに住んでいる人々が、国境の外でひとりぼっちになったのだ。そして彼らは歴史的な祖国から事実上引き離されてしまったのだ。

(47) ここで何をいうべきか？すべてが変わった。国、社会もだ。もちろん、同じ一つの民族 народ の一部がその発展の過程で、一連の原因や歴史的状況によって、ある特定の瞬間に自らを個別の民族 нация だと感じ、自覚するかもしれない。それにどのように向き合うべきか？その答えは一つしかあり得ない。それは、尊敬を持って、だ！

(48) 自分たちの国家を設立したいのですか？どうぞ！しかしどのような条件で？新生ロシア（Россия）の最も卓越した政治家の一人で最初のサンク

ト・ペテルブルク市長A. サブチャクの意見をここで思い起こそう。高度に専門的な法律家として彼は、すべての決定は合法的でなければならないと考え、後の1992年に以下の意見を表明している。ソヴィエトの機関である共和国は、それら自身が1922年の条約を無効化した後に、彼らがソ連に加入したときの領土に戻るべきだ。その他の領土獲得はすべてその根拠が無効化したのだから審議や交渉の対象だ、と。

(49) 換言すれば、来たときに持っていたものを持って出ていってください、ということだ。このような論理は争う余地がない。すでに指摘したように、ボリシェヴィキによる恣意的な境界の裁断は、ソ連設立以前にすでに始まっており、領土に関するすべての操作は人々の意見を無視して勝手に行われた、ということを付言すれば十分だろう。

(50) ロシア（Россия）連邦は新たな地政学的現実を認めた。単に認めただけではなく、ウクライナが独立国として成立するように多くのことをなした。困難な90年代、および新しい千年紀に我々はウクライナに大きな支援をしてきた。キエフはその「政治的算術」を利用してきたが1991 - 2013年に安価なガスのおかげだけでウクライナはその財政のために820億ドル以上節約することができ、現在ではヨーロッパ向けガス輸送の代金としてのロシア（Россия）側の支払い15億ドルに文字通り「執着している」。というわけで我が国との経済関係を保持することでウクライナにとってのプラスの効果は何百億ドルにも上るのだ。

(51) ロシア（Россия）とウクライナは何十年も何世紀も単一の経済システムとして発達してきた。我々が30年前に持っていた深い協調を今日ヨーロッパ連合諸国はうらやむかもしれない。我々は自然かつ、相互に補完し合う経済パートナーである。このような密接な相互関係は競争上の優位を強化するのを助け、両国の潜在力を何倍にもするのだ。

(52) ウクライナの潜在力は相当なものだ。それには強力なインフラ、ガス輸送システム、造船、航空機製造、ロケット製造、機器製造、などにおける先進的な諸部門、世界水準の学術的、デザイン、技術学校が含まれる。このような遺産を受け取って、ウクライナの指導者たちは、独立を宣言しながら

ら、ウクライナの経済が、そして人々の生活水準がヨーロッパで最も高いものの一つになると約束した。

(53) 今日、かつてウクライナが誇ったハイテク産業の巨人、そして国全体は、じっと横たわっている。この10年間で機械産業の製品出荷量は42パーセントに落ち込んだ。脱工業化の規模、および全体としての経済の退化は、ウクライナでこの30年間に事実上半減した発電量のような指標によって見ることができる。そして最後に、IMFのデータによると、コロナウィルスの疫病前の2019年にすでにウクライナの一人当たりのGDPは4千ドル未満である。これはアルバニア共和国、モルドヴァ共和、非承認国家のコソヴォ以下である。今日ウクライナはヨーロッパ最貧国である³²。

(54) これは誰のせいだろう？ウクライナ国民 **народ** のせいだろうか？もちろん違う。まさにウクライナ当局が何世代にもわたる成果を浪費し、風の中に放ったのだ。我々は、ウクライナ人民がいかに勤勉で才能があるか知っている。ウクライナ人は粘り強く根気よく成功、傑出した結果を達成することができる。そして開放的で天然の楽天主義、客好きといった資質はどこにも消えてくならないのだ。何百万の人々、我々がウクライナに対するのと同様に、ロシア（**Россия**）に対して単により感情を持つのみならず愛情も持っている、そんな人々の感情もまた、以前と同様に残っている。

(55) 2014年までに何百もの協定、共同計画が我々の経済、ビジネスや文化の交流の発展のために、安全保障の強化のために、共同の社会的経済的課題の解決のために機能していた。それとわかる利益がロシア（**Россия**）にもウクライナにも、人々にももたらされていた。我々はまさにこれを主要なものとする。そしてそれゆえ、すべての、強調しよう、すべてのウクライナ指導者たちと成果に満ちた共同作業をしてきたのだ。

32 2019年のウクライナのGDPは米ドル換算で1540億。人口4000万で割ると一人当たりは3850ドルとなる。ただし、その後、2020年にはGDPは156億ドル、2021年には約200億ドルに成長し、おおむね一人当たりのGDPは5000ドルとなっている。<https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPD@WEO/UKR?zoom=UKR&highlight=UKR>（2022年11月4日閲覧）

(56) 2014年のキエフにおける有名な事件の後でさえ³³、ロシア（Россия）政府に対して、我々の経済関係を保持し維持するという面において、さまざまな周辺の省庁のラインを使った別のコンタクト方法を熟考してきた。しかし、現在ないのと同様、当時もこれを受け入れようとする要望はなかった。それに関わらず、ロシア（Россия）は以前と同様にウクライナの主要な交易パートナーの一つであり何十万人ものウクライナ人が我国に稼ぎに訪れ、ここで厚情と支援にであっているのだ。このような国が「攻撃者の国」となっているのだ。

(57) ソ連が崩壊したとき、ロシア（Россия）においてもウクライナにおいても、多くの人々が、我々の密接な文化的、精神的、経済的な密接な関係が、そして民族 **народ** の同一性が、常に自分たちが一つであるという感覚に基づいて、無条件で保持される、と心から信じ、それに立脚した。しかしこの事件は最初は徐々に、やがてますます急速に、別の方向に展開し始めた。

(58) 事実上、ウクライナのエリートたちは自国の独立を、そう、国境問題を除外して、その過去の否定を通して根拠づけることにした。神話の創造、歴史の書き直し、我々を結びつけるものすべての歴史からの抹殺、ウクライナがロシア（Россия）帝国およびソ連の一部だった時期を占領として語ること、が始まった。我々共通の集団化の悲劇である30年代はじめの飢餓³⁴をウクライナ民族 **народ** の民族浄化だと詐称するようになった。

(59) 過激派やネオナチも公然と、ますます厚かましく自らの野望を表明した。公権力、およびウクライナ国民 **народ** から強奪し、その盗品を西側の銀行に預け、資本保全のために母国を売り渡す用意さえある地元のオリガルヒもまた、彼らに寛容だった。これに付言すべきは、国家制度の慢性的な脆弱性と他の地政学的意志への自発的な人質状態だ。

(60) 念を押しておこう。十分以前のことで、2014年よりはるか以前に合衆国とEU諸国は、ウクライナがロシアとの経済協力を縮小し、制限するよう

33 親露派のヤヌコヴィッチ大統領を退陣に追い込んだ2014年の「マイダン革命」を指す。ロシア側はこの事件を反露勢力によるクーデターとみなしている。

34 1932年から33年にかけて主にウクライナ地方を襲った「ゴロドモール」と呼ばれる飢饉。

計画的かつ執拗にウクライナに促した。ウクライナ最大の交易・経済パートナーとして我々は、発生した問題についてウクライナーロシア（Россия）—EUという形で審議するよう提案した。しかし、毎度我々には、ロシア（Россия）はそこに無関係だと表明された。この問題はEUとウクライナのみに関する、というのだ。西側諸国は事実上、対話についてのロシア（Россия）の度重なる提案を拒絶したのだ。

(61) 一歩また一歩とウクライナは危険な地政学ゲームに引きずり込まれていった。このゲームの目的は、ウクライナをヨーロッパとロシア（Россия）との戦いにおける対ロシア（Россия）の橋頭堡にすることだ。「ウクライナはロシア（Россия）でない」という観念がすでに避けられない時が必然的にやってきた。我々が決して和解できない「反ロシア（Россия）」が要求されたのだ。

(62) このプロジェクトの注文主たちは、さらに昔、「反モスクワのルーシ（Русь）」³⁵を作成したポーランド—オーストリアのイデオログ達の創造物をその基礎に採用した。だが、それがウクライナの人々の利益のために行われたなどといって誰も欺いてはならないのだ。ポーランド・リトアニア共和国にとってウクライナ文化が、それどころかコサックの自治が必要だったことは決してなかった。オーストリア・ハンガリーにおいては歴史的ルーシ（Русь）の土地は容赦なく搾取され、最も貧しいままにされた。利敵協力者たち、ウクライナ蜂起軍 ОУН-УПА 出身者が仕えたところのナチストたちにとって、必要だったのはウクライナではなく、アーリア人の支配のための生存圏と奴隷だった。

(63) 2014年2月にはウクライナの人々の利益について配慮されなかった。最も先鋭化した社会経済問題、当時の当局の誤謬と一貫性のない行動によって引き起こされた人々の正当な不満は、単に冒濫的に利用されたのみだった。西欧諸国はウクライナの国内問題に直接介入し、クーデターを支持した。その突入部隊となったのは過激な民族主義集団 националистический

35 モスクワ・ロシアをキエフ・ルーシの後継者とするロシア側の歴史観に対してリトアニアをキエフ・ルーシの後継者とする歴史観。

だった。彼らのスローガン、イデオロギー、あからさまで攻撃的なロシア嫌い（Русь）は、多分にウクライナの国政を規定するようになった。

(64) 今まで我々を統一し、接近させていたすべてのものが攻撃された。第一にロシア（Русь）語だった。新しい「マイダン」権力はまず初めの仕事として国家の言語政策についての法律を廃止しようとした。次に「権力の浄化」についての法律、事実上ロシア（Русь）語を教育課程から排除した教育に関する法律、があった。

(65) そして最後に、現大統領は今年5月に「先住民族 народに関する法案」を議会に提出した。これによって認められるのは、人種的 этнический 少数者を構成しながら自らの国家機関 государственное образование をウクライナ領外に持っていない人々のみである³⁶。法律は採択された³⁷。反目の新しい種が蒔かれた。そしてそれは、すでに指摘したように、それは領土的、民族的 национальный、言語構成的に関し、その形成の歴史に関して非常に困難な国においてである。

(66) 次のような論拠が聞こえてくるかもしれない。一つの大きな民族 нация、三元一体民族 народ についてあなたが語った以上、どのような違いが、人々は自分が何者かと、ロシア人（Русь）なのかウクライナ人なのかベラルーシ人（Русь）なのかと、考えるのだろう。私はこれに完全に同意する。それだけではない。民族的 национальный 属性の決定は、特に混血した家族においては、それぞれ個人の権利であり、自らの選択の自由である。

(67) しかし問題は、今日ウクライナにおいて状況は、強制的なアイデンティティーの変更に関する限り、全く別である、ということだ。そして最も不快なことは、ウクライナではロシア人（Русь）が単にそのルーツと、祖先の世代と絶縁させられているだけではなく、ロシア（Россия）は敵だと信じさせられているということだ。誇張して言うのではない。強制的同化、人種

36 「ウクライナ領外」のロシア連邦にその「国家的教育」を持つロシア人は「ウクライナを構成する先住民族」とはみなされないことになる。

37 この法案はウクライナ最高議会で2021年7月1日に採択された。<https://www.president.gov.ua/ru/news/prezident-pidpisav-zakon-pro-korinni-narodi-ukrayini-69677>（2022年11月7日閲覧）

的に純粋なウクライナ人国家形成、ロシア（Россия）に対する攻撃的な指向のコースは、その結果に関して、我々に対する大量破壊兵器の使用に肩を並べるのだ。このようなロシア人（Русь）とウクライナ人の深く、人工的な分裂の結果、ロシア（Русь）民族 народ は総計で何十万も何百万人も少なくなるかもしれない。

(68) 我々の精神的統一も攻撃された。リトアニア大公国の時代のように、新しい教会分裂が企まれた。政治的目的を追求していることを隠さずに、世俗権力は深く教会生活に干渉し、教会分裂、聖堂の占領、聖職者や僧の殴打にまで至った。モスクワ総主教との精神的統一の保持を前提としたウクライナ正教の広範な自治ですら彼らを全く満足させなかった。この明らかで、何世紀にもわたる我々の同族関係のシンボルを彼らはなんとしても破壊しなければならなかったのだ。

(69) ナチズムの英雄化を批判した国連総会の決議にウクライナの代表たちが何度も反対投票したのも当然だと思う³⁸。公権力の警備のもとにエスエス残党の戦争犯罪人たちを記念した行進、たいまつ行列が行われている。手当たり次第すべてのものを売り渡したマゼッパ、ポーランドの庇護の故にウクライナの土地によって報復されたペトリューラ、ナチスに協力したバンデーラ、らが民族の英雄に祭り上げられている。若い世代の記憶からウクライナで常に誇りに思われてきた真の愛国者と勝者の名前を消し去るためにあらゆることが行われている。

(70) 赤軍の軍列、パルチザン部隊で戦ったウクライナ人にとって、大祖国戦争³⁹ はまさに祖国の戦争だった。なぜなら、彼らは自分の家、自分の大きな共通の祖国を防衛していたからだ。2000人以上がソヴィエト英雄になった。彼らの中には伝説的パイロットのイヴァン・ニキートヴィッチ・コジェドゥーブ、恐れを知らない狙撃手オデッサとセヴァストポリの防衛者リュ

38 ロシアが提出した「ナチズム英雄化に対する闘争」決議案は、2019年12月の国連総会において賛成133票、反対2票（合衆国、ウクライナ）、棄権52票で採決された。<https://news.un.org/ru/story/2019/12/1369371>（2022年11月7日閲覧）

39 1812年の対仏戦を「祖国戦争」と呼ぶのに対し、第二次世界大戦、特に対独戦を「大祖国戦争」と呼ぶ。

ドミーラ・ミハイロヴナ・パヴリチェンコ、勇敢なパルチザン司令官シードル・アルチョミエヴィッチ・コフパクがいる。この不屈の世代は我々の将来のため、我々のために自らの命を捧げたのだ。彼らの功績を忘れることは、自らの祖父、父母を売り渡すことを意味する。

(71) 「反ロシア (Россия)」プロジェクトを何百万ものウクライナ住民が否定する。クリミアとセヴァストポリの住民は自ら歴史的な選択をした。一方、南東部の人々は平和裡に自らの立場を守ろうとした。しかし彼らは、子供たちも含めて全員、分離主義者でテロリストのリストに登録された。人種的 этнический 浄化、軍事力の使用による脅しが始まった。かくしてドネツク、ルガンスクの住民は自らの家、言語、生命を守るために武器をとった。ウクライナの諸都市に広がったポグロムの後で、ウクライナのネオナチ主義者が人々を生きたまま焼き殺しハチンを再現した、オデッサにおける 2014 年 5 月 2 日の戦慄と悲劇の後で⁴⁰、彼らに別の選択肢があったのだろうか。このような制裁をバンデラ主義の追従者たちはクリミア、セヴァストポリ、ドネツク、ルガンスクで行う用意があったのだ。彼らは今日でもこのような計画を否定していない。最後のときが来そうだった。しかしとうとう来なかった。

(72) キエフ当局のこの行為に続いた国家転覆は、必然的に対立と内戦を引き起こした。国連人権委員会の評価によれば、ドンバスにおける対立に関した犠牲者は 1 万 3 千人を超える⁴¹。その数には老人、子供が含まれる。おそろしい、取り返すことができない損失である。

(73) この兄弟殺しを止めるためにロシア (Россия) はあらゆることをした。ドンバスにおける対立の平和的解決を目的としたミンスク合意が締結された。それは今でも代案を持たないと確信する。いずれにしろ、だれもミンスクの「複合的方策」、およびそれに対応する「ノルマンディー・フォー

40 2014 年 5 月 2 日にオデッサの労働組合会館における「右翼セクター」による放火によって 46 名が焼死したとされる事件。

41 戦闘員を含めた数と思われる。国連人権委員会は 2014 年 4 月 14 日から 2021 年 7 月 31 日まで に紛争地域の市民の中から 3390 人の死者と 7000 人以上の負傷者が出たと報告している。
Объединенные нации права человека . Доклад о ситуации с правами человека в Украине от 23 сентября 2021. С.10.

マット」諸国の指導者たちの声明に対して行った自らの署名を撤回しなかった。だれも 2015 年 2 月 17 日付の国連安保委員会決議の再検討を發議しなかった。

(74) 公式会談の過程で、特に西側のパートナーからの「訓戒」の後で、ウクライナの代表たちは定期的にミンスク合意の「完全な遵守」を表明しているが、実際には彼らの「受諾不能性」の立場を指針としているのだ。ドンバスの特殊な地位についても、そこに住んでいる人々の保証についても真剣に審議しようとししないのだ。「外国の攻撃の犠牲者」の姿を利用して、ロシア（Русь）嫌いを売り物にする方を選ぶのだ。ドンバスにおいては流血の挑発を行っている。一言でいって、あらゆる手段によって外国の保護者と主人の注意を自らに引きつけるのだ。

(75) あらゆることから判断して、私はますます確信している。キエフはドンバスを必要としていない。なぜか？第一に、その地域の住民は、力づくで、封鎖によって、脅しによって彼らに押しつけようとし、現在も押しつけようとしている秩序を決して受け入れたことはなかったからだ。第二に、ロシア（Россия）、ドイツ、およびフランスの仲介の元でドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国と直接合意し、平和的にウクライナの領土保全を復活する現実的なチャンスを与えたミンスク 1 の結論も、ミンスク 2 の結論も、「反ロシア（Россия）」プロジェクトのすべての論理と矛盾するからだ。それは国内外の敵の姿を常に養殖することによってのみ支えられるのだ。付言しよう。西側諸国の側からの庇護とコントロールの元でだ。

(76) そしてこれが実際に起こっていることなのだ。何よりも、これはウクライナ社会の中に恐怖、攻撃的な言説、ネオナチ主義者への寛容、軍国主義化の雰囲気を作ることなのだ。それと並んで、単に完全な従属だけではなく、ウクライナの権力機関、諜報機関、軍隊の外国人顧問による監視、を含む直接的な外国統治、およびウクライナ領土の軍事的「開拓」、NATO インフラの展開、があるのだ。上述のスキャンダルな「先住民民族」народ 法律がウクライナにおける NATO の大規模な演習にまぎれて採択されたのも偶然ではない。

(77) このようなカモフラージュの元でウクライナ経済の残滓が吸い上げられ、その自然資源が搾取されている。農地の大量売却があったのは最近のことだが、それを誰が買い占めるかは明白だ。そう、ときとしてウクライナに財政資金、融資が分与されているが、それは西側企業のための西側の利益や条件、特惠待遇や特権のもとで行われている。ところで、誰がその負債を返済することになるのだろうか。明らかに、ウクライナの今日の世代だけではない。彼らの子供、孫の、そしておそらくは曾孫の世代まで返済する羽目になるだろう。

(78) 西側の「反ロシア (Россия)」プロジェクトの作者たちは、大統領、代議士、大臣を交代するようウクライナの政治システムに仕向けるのだが、ロシア (Россия) との断絶、ロシア (Россия) との敵対という不変の方針があった。現大統領の選挙前の基本的スローガンは、平和の達成だった。彼はそれに基づいて権力の座についた。約束は嘘だと判明した。何も変わらなかった。ウクライナそれもドンバス周辺の情勢はなにかいっそう頹廃したのだ。

(79) 「反ロシア」プロジェクトには、ウクライナの現実的な独立を主張しようとする政治勢力と同様に、主権国ウクライナにも出番がない。ウクライナ社会で講和について、対話について、発生した隘路からの出口の追求について、語る人には「親ロシア (Россия)」要員のレッテルが張られるのだ。

(80) 繰り返そう。ウクライナでは多くの人にとって「反ロシア (Россия)」プロジェクトはまったく受け入れられない。しかもそのような人は何百万人もいる。しかし、彼らには声を上げることは許されない。彼らからは事実上、自らの見方を擁護する法的可能性が取り上げられている。彼らは脅迫され、地下に追いやられている。信念の故、語った言葉の故、自らの立場を公表したが故に起訴されるだけでなく、殺されるのだ。殺人者たちは、通常、罰せられないままだ。

(81) ウクライナの「正しい」愛国者と今、名乗っているのはロシア (Россия) を憎んでいるものだけだ。それだけではない。ウクライナの国家機構全体は、我々が理解するところによれば、将来、完全にその理想によって建設するよう求められている。憎悪と敵意は（世界史も一度ならず証明し

ているところだが) 主権にとって全く不安定な基礎であり、多くの深刻なリスクと深刻な結果を孕んでいる。

(82) 「反ロシア (Россия)」プロジェクトに関するすべての奸計は我々にはわかっている。そして我々は、我々の歴史的領土とそこに住む我々に近い人々を反ロシア (Россия) の為に利用することを決して許さない。そのような試みに着手しようとする人にむけ、そのような人々はこのように自分の国を破壊しているのだ、と言いたい。

(83) ウクライナにおける現行の権力は、好んで西側の経験を引き合いにし、それを模倣のための手本と見なしている。ならば見てほしい。オーストリアとドイツ、合衆国とカナダがお互い並んで生活しているさまを。民族 этнический 構成、文化に関して近く、事実上同一の言語の彼らは、それでも自国の利益、自国の外交政策を持った主権国家であり続けている。しかしこのことは彼らの最も密接な統合や連邦的關係を妨げはしない。彼らには全く仮の、透明な境があるだけだ。その市民は国境を越えても全く自国にるように感じるのだ。家族を設け、学び、働き、事業に従事しているのだ。これは現在ロシア (Россия) に住んでいる何百万ものウクライナ人も同じだ。我々には一つの、自らの祖国があるのだ。

(84) ロシア (Россия) はウクライナとの対話のために開かれているし、最も困難な問題を審議する用意もある。しかし、このパートナーが、他国に奉仕せず、何者かの手中にある我々に向けた戦闘のための武器とはならず、自らの国益を主張することが重要であることを理解することが重要である。

(85) 我々はウクライナの言語と伝統に、ウクライナ人の自国を自由で安全で豊かな国家としてみようとする指向に、尊敬を持って接する。

(86) 私は信じる。ウクライナの真の主権はまさにロシア (Россия) とのパートナー関係において可能だ。我々の精神的、人間的、文明的な結びつきは、同じ源泉から出、共通の試練、成果、勝利によって鍛えられ、何百年もかけて形成されてきた。我々の同族関係は世代から世代へと受け継がれてきた。それは、現在のロシア (Россия) とウクライナに暮らす人々の心の中に、記憶の中に、何百万もの我々の家族を結びつけている血縁関係の中にあ

るのだ。我々はともにあるとき、何倍も強く、うまくいくのだ。見ての通り我々は、一つの民族 *народ* だから。

(87) 今、これらの言葉を敵対的に受け止める人もいるかもしれない。どうしても都合のいいように解釈されるかもしれない。しかし多くの人々は私に耳をかす。一つだけ言いたい。ロシア (Россия) は「反ウクライナ」であったことは決してなかったし、ないし、なることはないのだ。他方、ウクライナがいかにあるべきかは、その市民が決めるべきだ。

B. プーチン

II 分析と考察

以上訳出したプーチン論文から、プーチン氏のウクライナ観の特徴を読み取ることができよう。それは古代ルーシにその源を発するロシアとの歴史的一体性、および過去現在のウクライナの国家としてのありよう、そして西欧勢力による「反ロシア・プロジェクト」の陰謀、という三点に要約することができる。以下、この三点について考察していこう。

まずはキエフ・ルーシの伝説と「三元一体民族」の神話について⁴²。一見して明らかなおと、プーチン氏は「ロシアとウクライナとの民族的一体性」、という主張の根拠を古代ルーシの一体性に求めている (4)⁴³。モンゴル人の襲来によって古代ルーシの統一性は破壊されたが (7)、その後、東北ルーシはモスクワを中心に再統一され、西ルーシはリトアニア大王国の一部となりポーランド化が進んだ (10) (11) (27)。リトアニア大公国領内でも正教徒のコサックたちはモスクワの庇護を求め、ドニエプル川東岸地域は小ロシアとしてロシア帝国に併合された (12)–(16)。小ロシア人が様々な分野でロシアに貢献する伝統はソ連時代まで続く (20)。このようにロシアとウクラ

42 ウクライナ・ナショナリズムと「一体論」との関係については、村田優樹「20世紀初頭のウクライナ・ナショナリズムとロシア・ナショナリズム」、および高橋沙奈美「割れた洗礼盤」、ともに青土社『現代思想』、2022年6月臨時増刊号、参照。

43 以後、本文の該当する段落の番号を括弧に入れて示す。

イナの歴史的一体性を概観しながらプーチン氏は、小ロシアとロシアを結び付けたものは共通の信仰と文化的伝統、そして言語的類似性だった、と強調する (21)。

ルーシ西南部はロシア帝国やソヴィエト連邦によってふたたびロシアとの一体性を回復したが、それらが崩壊すると、脆弱な各種の「似非国家」権力がこの地に成立した (29) - (36)。ソ連崩壊後に独立した現在のウクライナは、歴史的なルーシの領域内にソ連時代の人為的な国境線引きによって成立したものだ (43)。ウクライナはソ連崩壊後もロシアとの一体性の中でこそ繁栄することができたが、その後のロシア離れ政策によって「ヨーロッパ最貧国」にまで落ち込んでしまった (51) - (53)。このようにロシアとのつながりの中でこそ、ウクライナは反映できると主張する以上、プーチン氏は三民族を糾合する一体性、つまり「ルーシの世界」の再建を目指していると解釈すべきだろう。

さらにプーチン氏は、内戦期の似非国家や現在のウクライナの反ロシア政策の背景に一貫して「反ロシア・プロジェクト」が存在する、と主張する。常に本来の「ロシア」を侵食しようとする「西側」勢力である (26) (60)。現在この勢力は、ウクライナを離反させロシアに敵対させようと「反ロシア・プロジェクト」を展開している、というのである (59) - (69)。これは冷戦期における東西対立、およびソ連崩壊以後の NATO の東方拡大を背景にした、一貫した「西側」に対する警戒感であろう。

さらにプーチン氏は、現在ウクライナ人のナショナル・アイデンティティを扇動しているのがこの「反ロシア・プロジェクト」に他ならない、と主張する。かつてロシア帝国において小ロシア人のアイデンティティは、大ロシア人、小ロシア人、ベラルーシ人を含む「ロシア民族」の枠内で発達したのだが (25)、ロシアを排除する現ウクライナ政権によるウクライナ化政策は「反ロシア・プロジェクト」の一環で行われているのだ。

このように論を進めたプーチン氏は、ウクライナの現状に言及してこの論文を締めくくっている。つまり現在ウクライナ国内では、非ウクライナ民族、特にクリミアやドンバスのロシア人は少数民族として迫害の対象になっており (71)、キエフ政権のネオナチ的排他主義に対するドンバス住民の抵

抗は内戦に発展した。他方ロシアはこの「兄弟殺し」を平和的に止めるためにあらゆることをしたし (71) - (73)、今もロシアは一つの民族として元のパートナー関係に戻るよう、ウクライナに呼び掛けている (86) - (87)。と、このようにロシア・ウクライナの一体性の回復を「三民族一体論」の立場から訴えるのだった。

むすび

この論文の時点では平和的な解決を呼び掛けていたプーチン大統領だったが、その約半年後には軍事侵攻を決定する。多くのロシア研究者はプーチン大統領が軍事侵攻に踏み切ることを予想できなかった。彼の危機感、思い込みの深さを理解できなかったのだ。

その一例として、日本の論者の中には彼が説く「ルースキー・ミール Русский мир」を「ロシアの世界」と誤訳したものもあった。上にみたように、彼「三元一体民族」のテーゼは古代ルーシに基づいている「ルーシの世界」と訳すべきであろう。

プーチン大統領がソ連の復活を目論んでいるとする見方も皮相的である。ソ連を否定して成立した新生ロシアの大統領としてプーチン氏は、ソ連、およびそれに先立つロシア帝国時代に不当にゆがめられた「本来のルーシ」の一体性、「ルーシの世界」を回復しようとしているのである。ここからソ連時代の人為的で不合理な国境線引きを正し、現地住民の自然な一体性を回復するという使命観も導き出されるわけだが、これは南オセチア紛争の「成功体験」を踏まえてのことだろう。

一見、壮大なアナクロニズムに見える。その思想的源泉は19世紀中庸のスラヴ派思想、そしてその外交思想である汎スラヴ主義に端を発するロシア・ナショナリズムの系譜に属するようにも思われるが、この点については指摘にとどめる。

(令和4年度札幌大学研究助成の成果である)